

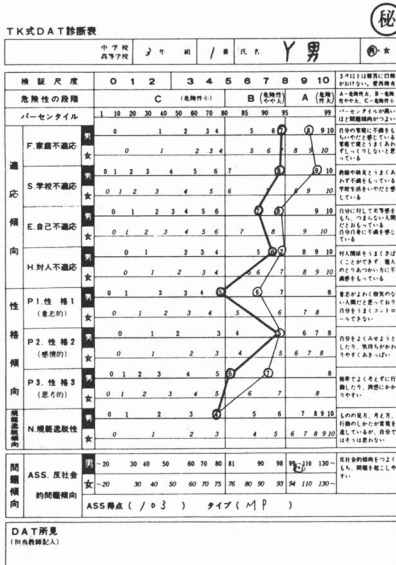
自尊の欲求を満たしたという表情がみられた。自己表現の場面では、いろいろな尺度で生徒を理解し、生徒のよさを認めることが大事であることを知った。

(4) 二次欲求を生かす個別指導<例>

教育相談的指導場面	
1 教育相談 6校時の英語で元気がない様子、放課後話を聞く。	
英語おもしろくないの？ くやしかったんだね くやしって感じることは Y君は数学でいい点をと りたいという前向きな気持 ちがあるからだと思うよ。	首を横にふる。黙って7点の 数学の答案を見せる。 涙を流す。 涙を流しながら「ぜんぜんわ
2 英語の授業 英問英答を行い、答えられた者から座るといゲームを やった。Y男には最後まで残るのではという不安があった。 不安がありながらもやろうとする気持ちはできたようだ。 正解が答えられるよう回を重ねることにした。最初に正解 を答えて「オレ、一番だ」と満足そうに周りを見渡してい た。	
3 国語の授業 グループで話し合ったが、なかなか意味がつかめない。	
指導の考察	
不満の多い生徒である。家庭とも学校とも他人ともなじ むことができず、性格的にも問題が多い。「学校で注意さ れることが多い」という質問の不満度が10であること については「先生だって人間なのに偉そうに言うから頭にく る」と不満をぶつける。しかし、教師に認められ、賞賛さ れると嬉しそうな様子を、学習への取り組みも意欲的 になる。教師の積極的なかわりは、本人の問題性に変化を もたらすものであることから、欲求不満な状態にあったこ とが分かる。 家庭での愛情ストロークも不足しており、教師の支えが 心の安定を保つ。自己像を高めることが課題である。	

— 事前
— 事後

◎危険性
が大きい
Y男を例
にしたが
個別指導
の結果、
右図のよ
うな変容
がみられ
た。



4. 研究の成果

Y男の変容でもわかるように、教育相談的な指導は学校適応、自己適応の傾向を高めたといえる。これは、欲求がいくらかでも満たされてきた結果と考えられる。成果として得た結論について以下に示す。

- ① 教育相談的な指導の対応は生徒の心を安定させる。
- ② 生徒の二次欲求に即した教師の適切な対応は生徒の自己像を否定から肯定的な姿に変えていく。
- ③ 教師の肯定的なかかわりは、生徒の心を健康な状態にし、子どもの性格やものの見方を望ましいものに育てていく。
- ④ 一人一人が個性を持ち異なる存在であることを教師自身が自覚して指導に当たることによって、生徒は心を開き個性のよさを発揮する。
- ⑤ 個別的指導対応は教師と生徒の人間的な関係が基盤にあって生かされる。
- ⑥ 教育相談的な指導のかかわりによって欲求が満たされたことを自覚できると、それは次への行動意欲を生み出す原動力となる。

5. おわりに

今後は、教育相談的な指導をどれだけ日常化した姿にしていけるかが課題である。そして、生徒を真に理解する意味からも生徒と多く触れ合い、教育相談の機会を増やしていくことが必要である。